

「いな活」用救急対応マニュアル

令和 8 年 4 月
稲沢市教育委員会

目 次

	ページ
1 「いな活」における緊急度判断基準.....	1
2 熱中症発生時の救急体制.....	2
3 傷病者発生時の対応と発生防止対策	
(1) 傷病者発生時の対応、救急連絡体制.....	3
(2) 一次救命処置(心肺蘇生法)の手順.....	4
(3) 傷病者発生防止対策.....	6

1 「いな活」における緊急度判断基準

(1) 呼吸(A・B)、心臓・脈拍(C)、意識(D)に問題があるものはすべて超緊急～緊急

区 分		具体例
A (Airway)	呼吸	気道が確保できていない 通常の呼吸をしていない など
B (Breathing)		
C (Circulation)	心臓・脈拍	出血性ショック など
D (Dysfunction of CNS)	意識	もうろうとする、返事がない など

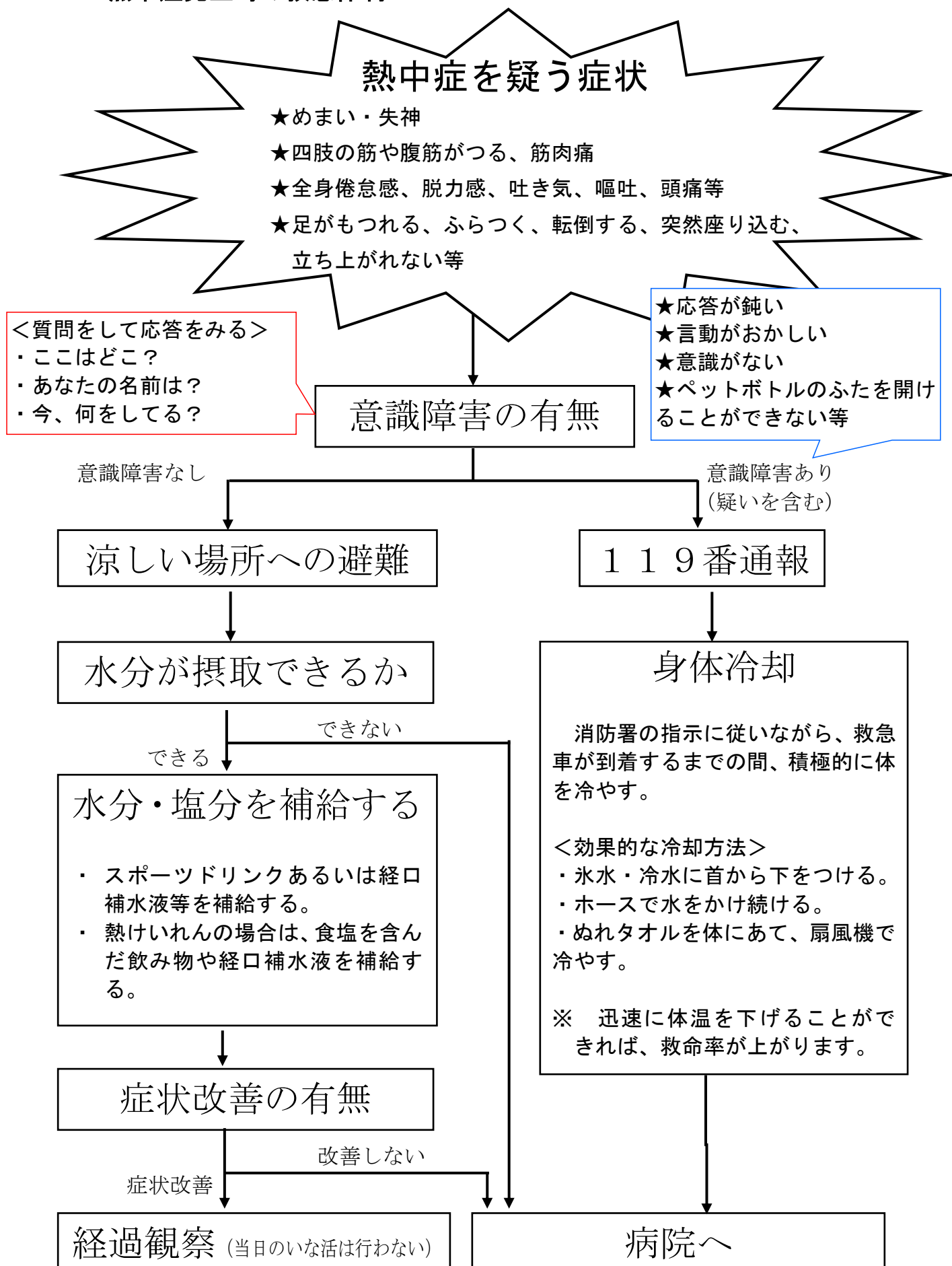
(2) 判断に迷ったときは、一つ上の処置をする。

(3) 既往症の可能性のある症状が出た場合は、一つ上の処置をする。

(心臓病、アレルギー疾患、喘息等)

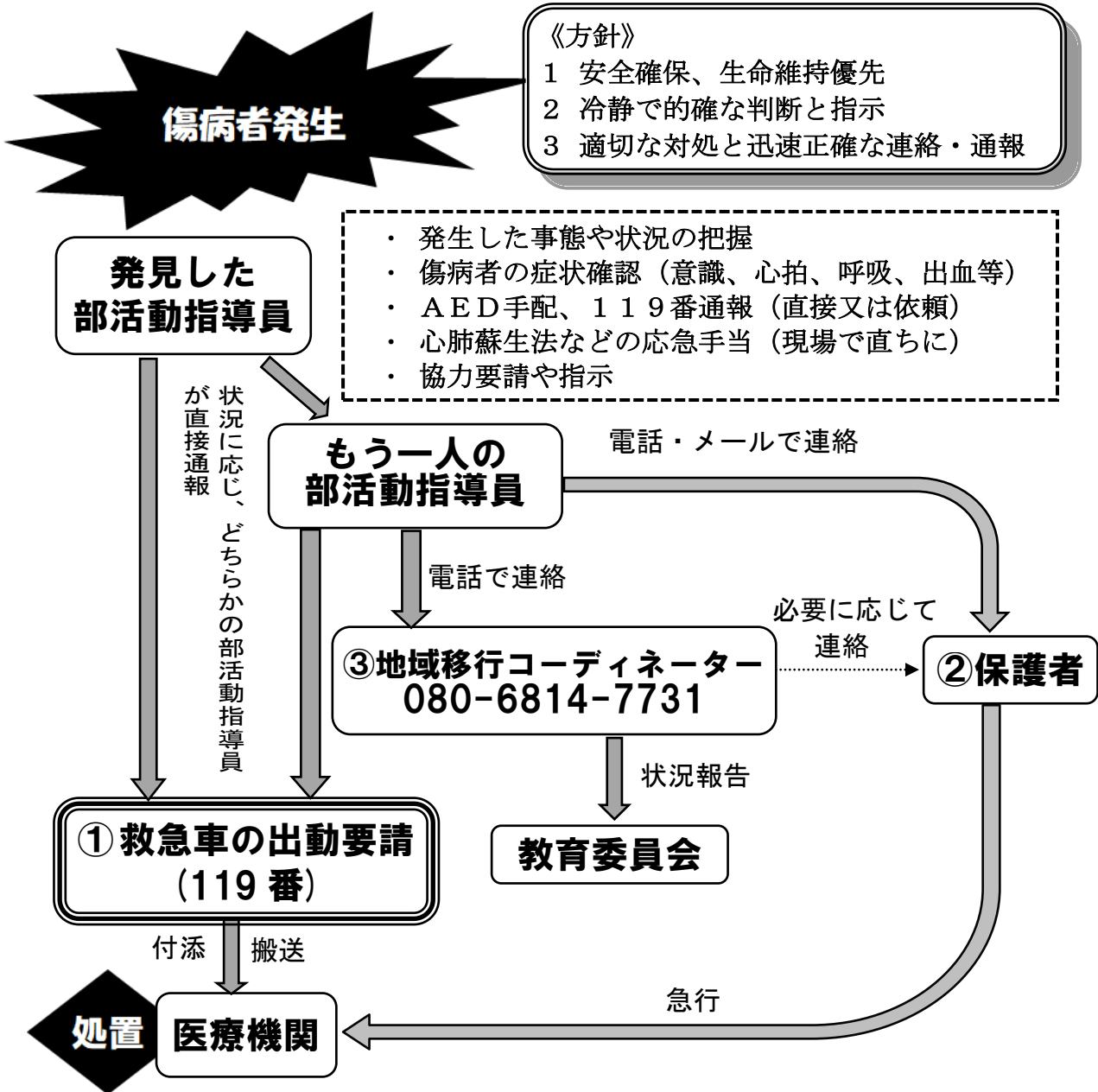
緊急度	対 応	症 状 例
超緊急	心肺蘇生・ AEDも行う	心停止・呼吸停止<A・B・C> 呼吸困難(通常の呼吸をしていない、けいれん等) <A・B・D> 意識障害(もうろうとする、返事がない等) <C・D>
緊急	治療の遅れ は危険	頭や胸を強く打った <A・B・C・D> 高所から転落した <A・B・C・D> 顔色が悪い、くちびるの色が紫色 <A・B・C> 熱中症等の疑い(頭痛や吐き気、けいれんを伴う等) <C・D> 重度の外傷(広範囲のやけど、出血が止まらない等) <A・B・C・D> 喘息の既往歴がある発作(激しい咳、呼吸苦を伴う等) <A・B・C・D> 手足・顔面のけが(大きく変形している、歩けない、動けない等) <A・D>
準緊急	医療機関を受診 ※速やかな搬送のため に必要であれば救 急車を呼ぶ	喘息の既往歴がない発作 強い痛みを伴う打撲 刺された・噛まれた傷 縫合が必要な傷 等
非緊急	練習場もしくは自宅 で様子を観察する	上記の超緊急・緊急・準緊急以外の明らかに軽い症状

2 熱中症発生時の救急体制



3 傷病者発生時の対応と発生防止対策

(1) 傷病者発生時の対応、救急連絡体制

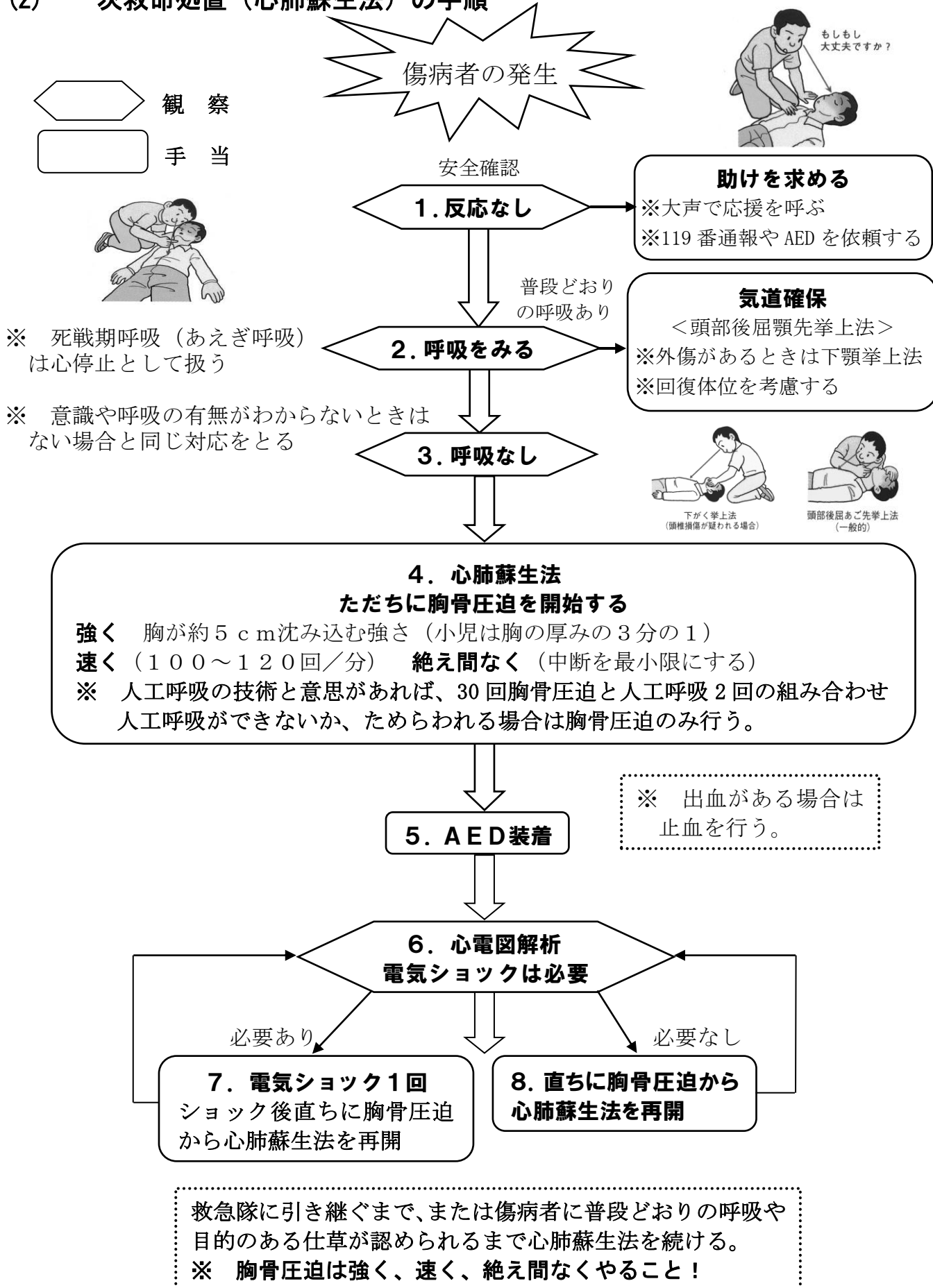


※ 緊急連絡をする順番は、①119番、②保護者、③地域移行コーディネーターの順に連絡をする。

TEL 119番「救急車をお願いします」

- ① ○○中学校 住所（ ）
- ② 電話をかけた人の名前
- ③ 事故の状況と人数、性別、年齢、氏名
- ④ 症状を簡単明瞭に伝える
- ⑤ 救急車が到着するまでにしておくことを聞く
- ⑥ 外で、救急車の誘導
- ⑦ 事故の状況をよく把握している者が同乗

(2) 一次救命処置（心肺蘇生法）の手順



(3) 傷病者発生防止対策

① 活動前の体調チェックについて

必ず活動前には健康観察を行い、生徒の体調を確認する。体調不良やけが等をしている生徒には、その生徒に応じた練習メニューを与える。また、途中で体調が悪くなったら、すぐに報告するように必ず伝える。

② 活動における外傷等の事故防止について

ア 指導計画を作成する上での確認事項

部活動指導員は、他の部活動指導員等と連携し、以下の確認事項を踏まえた上で適切な指導計画を作成し、計画的に実施する。

- 活動目標を明確にした上で、事故発生要因となりうる以下の危険要因を十分に見極め、指導計画に反映する。

① 個人（活動を実践している人）の要因
② 方法（活動の方法・内容・仕方等）の要因
③ 環境（施設、設備、用具、自然条件、社会環境等）の要因
④ 指導・管理（活動の指導方法・内容、管理体制等）の要因

- 生徒の健康状態に配慮した練習日数や練習時間を設定する。
- 疲れや体調不良など、日頃から生徒の健康管理に十分配慮する。
- 運動種目等の特性を踏まえ、種目特有の危険性に配慮した適切な練習内容を設定する。
- 大会参加に当たって、以下の点を確認する。

① 参加に対する保護者の承諾を適切な方法で得ているか。
② 大会中の生徒の健康管理に配慮しているか。
③ 現地集合・現地解散を基本とし、移動に関しては保護者の責任の下、安全に行うことを周知されているか。
④ 緊急時の連絡体制が整備され、その方法を事前に周知されているか。

部活動指導員は、活動方針や活動内容、年間計画について保護者に周知するとともに、生徒の健康状態等の情報交換など、連携を十分に図る。

イ 生徒への指導事項

- ・ 基本的に生徒自身が自らの体調を考え、体調不良（頭痛、吐き気・気分不快等）を感じたときには無理をせず、速やかに部活動指導員に伝える。
- ・ 高い気温下や長い時間集中して活動していると判断力が低下してくるため、周囲の生徒が互いの体調を相互管理する（体調不良等の観察、声掛け等）。体調が悪そうな仲間に気付いたら、速やかに部活動指導員に伝える。